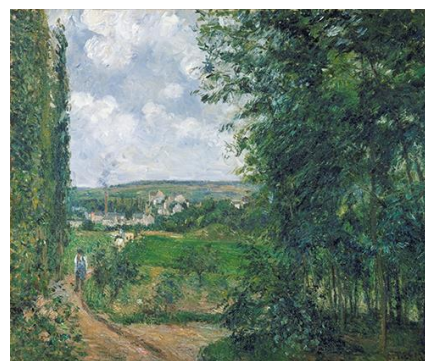


**開館 30 周年記念企画展プレスリリース「美術館へのおくりもの一寄贈によるコレクション成長のあゆみ」**

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

標記の件につきまして、本書のとおりご案内いたします。

- 1 **展覧会名** 開館 30 周年記念企画展「美術館へのおくりもの一寄贈によるコレクション成長のあゆみ」
- 2 **会 期** 平成 30 年 4 月 21 日(土)～6 月 3 日(日)
- 3 **展覧会概要** (資料 2～3 ページ参照)  
 近年寄贈を受けた新発見の中村<sup>つね</sup>彝<sup>もとはる</sup>作〈伊原元治氏像〉を初公開。作品寄贈にまつわる様々な背景を紹介しつつ、過去の展覧会の記憶も併せて展示し、寄贈によるコレクション成長のあゆみを振り返ります。
- 4 **出品作品** (資料 3～4, 6 ページ参照)



作品名・制作年・所蔵 (図版左から)

1) 中村彝〈伊原元治氏像〉1920 (大正 9) 年 モデルの遺族寄贈 ☆初公開

2) 横山大観〈紫山返照〉1935 (昭和 10) 年 作者より茨城県へ寄贈

3) カミーユ・ピサロ〈グラット=コックの丘からの眺め、ポントワーズ〉1878 年 常陽銀行寄贈

※出品作品図版は 6 点あります。その他図版については資料 6 ページを参照してください。

5 **イベント** (資料 5 ページ参照)

オープニングセレモニー

(1) 日時: 4 月 21 日(土)午前 9 時 10 分～

(2) 会場: 企画展示室入口

(3) 定員: 先着 50 名

(4) 申込: 事前申込 (来館, または往復ハガキ), 締切 4 月 7 日(土) (ハガキ必着)

(5) 内容: オープニングセレモニー (テープカット), 企画展鑑賞。

※その他イベントについては資料 5 ページを参照してください。

《問い合わせ先》茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

Tel:029-243-5111 / Fax:029-243-9992 / E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

展覧会担当: 美術課 花井 / 広報担当: 企画普及課 平川 / イベント担当: 企画普及課 磯

## 1 展覧会名

開館 30 周年記念企画展「美術館へのおくりもの—寄贈によるコレクション成長のあゆみ」

## 2 主催等

主催：茨城県近代美術館

後援（予定）：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK 水戸放送局／産経新聞社水戸支局／  
東京新聞水戸支局／日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局

## 3 会期

平成 30 年 4 月 21 日（土）～ 6 月 3 日（日）

休館日：月曜日（ただし、4 月 30 日（月）及び 5 月 1 日（火）は開館）

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時（入場は午後 4 時 30 分まで）

## 4 会場

茨城県近代美術館

## 5 入館料

一般 600(480)円／高大生 360(310)円／小中生 240(170)円

※（ ）内は 20 名以上の団体割引料金

※満 70 歳以上の方、障害者手帳等をご持参の方は無料。土曜日は高校生以下無料

## 6 展覧会概要(約 700 文字)

2018 年、当館は開館 30 周年を迎えます。美術館にとって重要な財産といえるもの、それはコレクション（収藏品）です。当館の前身である茨城県立美術館が開館した 1947 年からおよそ 70 年にわたる作品収集のあゆみの中で、大きな位置を占めるのが「寄贈」です。当館は、様々な人々からの貴重な「おくりもの」によって支えられてきました。美術館に作品を寄贈する—そこには単なる「もの」の授受にとどまらず、作家や遺族、個人コレクター、画廊や地元企業との多様なつながりの物語がありました。

様々な「おくりもの」は、どのように当館コレクションの特色を育ててきたのでしょうか。美術館の作品収集には、作品を集めて展示する、そして展示することで作品が集まってくる、という不思議なサイクルがあり、作品収集と展覧会活動は密接な関わりを持ちます。「おくりもの」は、当館がどのような展覧会を開催してきたか、作品に携わる人々とどのような関係を築いてきたかということの反映でもあるのです。

本展は、作品寄贈にまつわる様々な背景を掘り起こしつつ、過去の展覧会の記憶も併せて展示する試みです。また、近年寄贈を受けた新発見の中村<sup>つね</sup>彝<sup>もとはる</sup>（伊原元治氏像）の初公開の機会となります。当館に携わったすべての方々へ感謝と「これからもよろしくお願ひします」の気持ちを込めて、寄贈によるコレクション成長のあゆみを振り返ります。

【広報文 1】 (57 字)

新発見の中村彝作〈伊原元治氏像〉を初公開！作品寄贈の背景を紹介しつつ、寄贈によるコレクション成長のあゆみを振り返ります。

【広報文 2】 (92 字)

近年寄贈を受けた新発見の中村彝作〈伊原元治氏像〉を初公開！作品寄贈にまつわる様々な背景を紹介しつつ、過去の展覧会の記憶も併せて展示し、寄贈によるコレクション成長のあゆみを振り返ります。

【広報文 3】 (205 字)

近年寄贈を受けた新発見の中村彝作〈伊原元治氏像〉を初公開！当館の前身である茨城県立美術館の開館から約 70 年にわたる作品収集のあゆみの中で、大きな位置を占めるのが「寄贈」。作家や遺族、個人コレクター、画廊や地元企業からのおくりものは、どのように当館コレクションの特色を育ててきたのでしょうか。作品寄贈にまつわる背景を紹介しつつ、過去の展覧会の記憶も併せて展示し、寄贈によるコレクション成長のあゆみを振り返ります。

7 出品点数 約 110 点、構成

- 0章 近代美術館前史—収蔵品のコア形成期
- 1章 企業・団体・画廊からのおくりもの
- 2章 個人からのおくりもの
- 3章 親しき人より—作家の遺族・友人からのおくりもの
- 4章 つくり手たちからのおくりもの—こんな展覧会をやってきた

☆中村彝「伊原元治氏像」1920 年 モデルの遺族寄贈（初公開）

- オノレ・ドーミエ〈うるわしき日々〉ほか 志村巖氏寄贈
- カミーユ・ピサロ〈グラット＝コックの丘からの眺め、ポントワーズ〉1878 年 常陽銀行寄贈
- 小川芋銭〈太古香〉 作者遺族寄贈
- 駒井哲郎〈束の間の幻影〉1951 年 照沼毅陽氏寄贈（新収蔵）
- 堀内正和〈うらおもてのない帯（メビウスの帯）〉1977 年 作者遺族寄贈

8 展覧会の特徴と見どころ

(1) 新発見！中村彝作〈伊原元治氏像〉初公開

—画家から親友の妻へ、モデルの遺族から画家の故郷への「おくりもの」

描かれている美男子は東京帝大卒の若き官僚、伊原元治。持病の結核を癒すため、大島へ旅に出た恋煩いの中村彝と出会い、親友となったと言われている人物です。その後、伊原は彝と同じく結核を病み、30 歳の若さで亡くなりました。〈伊原元治氏像〉は、伊原の生前の写真をもとに彝が描き、伊原の妻・彌生へ贈った肖像画です。残された書簡などから、その絵の存在は知られていましたが、私的に贈られたものであるため展覧会へ出品されたことはなく、また画集に掲載されることもなかったため、どのような絵であるか知られることのないまま、長らく不明となっていました。近年、伊原の孫にあたる遺族が自宅で絵の入った包みを発見し、彝の作品を数多く所蔵する当館へ相談に訪れました。作品や書簡に残された手掛かりからこの肖像画の実在が確認され、遺族のご厚意により平成 28 年度に当館へ寄贈されました。本作は彝から親友の妻への「おくりもの」であり、またその遺族から彝の故郷への「おくりもの」ということになります。額の付いていない状態で発見されたため、平成 29 年度に額の取り付けを完了し、**本展が初公開**となります。

- (2) **横山大観<sup>うぜん</sup>、小川芋銭<sup>こがわいせん</sup>、木村武山<sup>きむらたけやま</sup>、飛田周山<sup>ひだしゅうざん</sup>—昭和 10 年、画家から茨城県への「おくりもの」再集結！**  
「美術館」という県立の文化施設が茨城県に生まれたのは、戦後のことです。それを遡る昭和 10 年、水戸市三の丸の旧県庁構内に、本県唯一の文化活動の拠点として、茨城会館が開設されました。その開館記念美術展覧会の審査にあたったのが、大観・芋銭・武山・周山でした。彼らは会期終了後、茨城県に各々 1 点ずつ自らの出品作を寄贈しました。大観の〈紫山返照〉、芋銭の〈霞ヶ浦〉、周山の〈森漫<sup>びようまん</sup>〉は出品に際して画壇の大家たちが茨城県内の風景を描いたもので、武山の〈英姿〉は甲冑姿の神武天皇像を描いたものです。その後、4 点はそれぞれの時期に管理換えが行われ、現在はすべて当館の所蔵となっています。いずれも大型作品であるため、再び 4 点揃って展示されるのは貴重な機会です。
- (3) **名品の背後に、名コレクターあり！—公立コレクションの個性を支える「民力」**  
フランスの風刺画家・オノレ・ドーミエの約 600 点におよぶ志村コレクション、駒井哲郎<sup>せいまやなお</sup>、清宮質文<sup>ぶみ</sup>、浜口陽三など、近現代版画の代表作家が揃う照沼コレクション、稗田一穂<sup>ひえだかずほ</sup>ら大家からフジイフランソワ、田中武まで、現代日本画の新たな動向を示す寺田コレクション。美術愛好家からの寄贈品は、その選球眼の鋭さ、深さ、ユニークさによって、公立美術館の限りある購入資金ではカバーできない分野や時代を補い、当館のコレクションの個性を支え、豊かな広がりをもたらしてくれるものです。木村武山や木内克<sup>きのうちよし</sup>ら茨城ゆかりの作家のコレクターであった大塚子之吉<sup>おののきち</sup>氏は、水戸の料亭・大塚屋の主人であり、黄門料理の研究家でもありました。「個」の眼によって選ばれた「おくりもの」を集め、エピソードを交えながら紹介します。
- (4) **美術館を支える企業団体、画廊の存在—作品収集の裏側を紹介**  
美術館の心強いサポーターとして、企業団体や、画廊の存在があります。地域の文化育成に貢献したいという志をもつ地元企業や団体によって、当館は長年にわたり支えられてきました。印象派の巨匠カミーユ・ピサロ〈グラット＝コックの丘からの眺め、ポントワーズ〉は、開館記念展「モネとその仲間たち」に出品されたのを契機に常陽銀行により購入され、当館へ寄贈されたものです。さらに平成 27 年度には常陽銀行創立 80 周年の記念事業として、フォーヴィスムを代表する画家・ヴラマンクの〈花〉の寄贈を受けました。これらは海外の美術館からの貸出オファーを受けることも度々あり、地域の人々に本物の海外作品を鑑賞する喜びを提供してくれるばかりでなく、当館の存在を内外へ発信してくれています。  
また、画廊との関係も美術品の売買のみに限られるものばかりではありません。画廊は長い時間をかけて、芸術家ひとりひとりの制作に伴走する役割があり、作品が美術館に購入された際に、その制作過程を示すスケッチや、関連作家の資料などが画廊から美術館へ寄贈されるというケースも少なくありません。また画廊と付き合いの深い作家の故郷が茨城であったという縁から、寄贈につながったこともあります。通常の作品展示では語られることのない、作品収集の裏側を紹介するのも本展の見どころのひとつです。
- (5) **こんな展覧会をしてきた—作り手と遺族と美術館の三人三脚**  
美術館の作品収集には、作品を集めて展示する、そして展示することで作品が集まってくる、という不思議なサイクルがあり、作品収集と展覧会活動は密接な関わりを持ちます。「おくりもの」は、当館がどのような展覧会を開催してきたか、作品に携わる人々とどのような関係を築いてきたかということの反映でもあるのです。開館以来、当館は多くの美術家たちと展覧会を作り上げてきました。展覧会に向けて美術家たちは新作を制作し、会期終了後に美術館は記念として寄贈を受けることも多く、また物故作家の展覧会后、遺族から貴重な「形見分け」として作品や資料をいただくこともあります。これらの「おくりもの」は美術館の足跡そのものといえるでしょう。展覧会の「記憶」である図録や資料とともに、寄贈によるコレクション成長の軌跡を振り返ります。

## 9 イベント

### (1) オープニングセレモニー

日時：4月21日(土)午前9時10分～ / 会場：企画展示室入口

定員：先着50名

申込：事前申込(来館, または往復ハガキ), 締切4月7日(土)(ハガキ必着)

内容：オープニングセレモニー(テープカット), 企画展鑑賞。

### (2) スライドトーク「新発見! 中村彝〈伊原元治氏像〉のこと」

日時：4月21日(土)午後2時00分～ / 会場：企画展示室出口

内容：新発見の中村彝「伊原元治氏像」について, 寄贈にいたるまでのエピソードを交えながら作品の制作背景について解説します。

解説：小泉淳一(当館学芸員)

### (3) GW スペシャル 学芸員によるリレー・ギャラリートーク

日時：5月4日(金祝)・5日(土祝)午後2時から / 会場：企画展示室

内容：ベテラン・中堅・若手, 各世代の学芸員が「思い出の1点」についてリレー形式で話します(要  
展覧会チケット)。

### (4) ワークショップ(タイトル未定)

日時：5月12日(土) 時間未定 / 会場：講座室

定員：未定(要展覧会チケット)

講師：野沢二郎(本展出品作家, 明星大学教育学部教授)

申込：事前申込(来館, または往復ハガキ), 締切4月27日(金)(ハガキ必着)

### (5) ミュージアムコンサート「中山うりミニライブ」

日時：5月20日(日)午前11時～, 午後2時～(各回30分程度) / 会場：エントランスホール

定員：各回150名(申込不要)

出演：中山うり(うた・アコーディオン・ギター・トランペット), 南勇介(ウッドベース)

小林創(ピアノ), 大淵愛子(フィドル)

### (6) 講演会「大塚屋<sup>ねのきち</sup>子之吉さんのこと, 黄門料理のこと」

日時：5月26日(土)午後2時～3時30分 / 会場：講堂

定員：250名(申込不要)

内容：寄贈者の一人, 水戸の料亭「大塚屋」のご主人であった大塚屋子之吉氏は黄門料理の研究家でした。  
茨城民俗学会会長の今瀬文也氏に大塚さんの思い出とともに, 黄門料理のお話をいただきます。

講師：今瀬文也氏(茨城民俗学会会長)

### (7) Le cadeau (ル・カドー)

日時：6月2日(土)・3日(日)午前9時30分～午後4時 / 会場：千波湖側テラス・芝生広場

内容：平成24年度より開催しているマルシェ・ド・ノエルの初夏バージョン。展覧会にあわせた「おくりもの」=「Le cadeau」をイベント名に掲げ, 「初夏のお茶会」をテーマに2日間のイベントを開催します。

## 10 問い合わせ先

茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

Tel:029-243-5111 Fax:029-243-9992 E-mail:fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

展示担当：美術課 花井 / 広報担当：企画普及課 平川 / イベント担当：企画普及課 磯

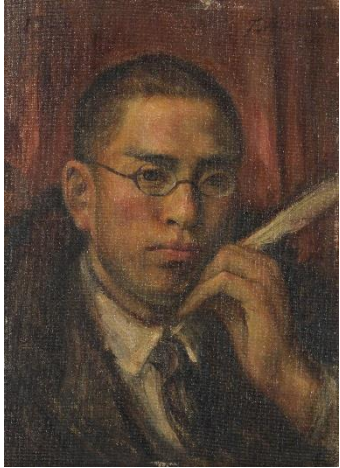


**出品作品図版**

- ※1 このページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。
- ※2 画像には、作品名・制作年・所蔵（全て茨城県近代美術館蔵）を必ず入れてください。

- 1 中村<sup>つね</sup>彝<sup>もとはる</sup>〈伊原元治氏像〉1920（大正 9）年 モデルの遺族寄贈 ☆初公開
- 2 横山大観〈紫山返照〉1935（昭和 10）年 作者より茨城県へ寄贈
- 3 カミーユ・ピサロ〈グラット=コックの丘からの眺め、ポントワーズ〉1878年 常陽銀行寄贈
- 4 建畠<sup>たてはたかくぞう</sup>覚造〈Spiral-2〉1988（昭和 63）年 作者寄贈
- 5 菱田<sup>しゅんそう</sup>春草〈落葉〉1909（明治 42）年 財団法人茨城県開発公社寄贈
- 6 オノレ・ドーミエ〈善きブルジョワたち 47〉1847年 志村<sup>いわお</sup>巖氏寄贈

1



2



3



4



5



6

